



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

第75回卒業証書授与式・式辞

ここ数日の気温の上昇に驚いたかのように校庭の木々の蕾もほころび始め、ようやく春の息吹が感じられる今日のこの佳き日に、金沢市教育委員会学校教育センター主任指導主事 村本 和代様、PTA会長 濱田勝様のご臨席を賜り、第75回卒業証書授与式を挙行できますことを、職員一同、心から厚くお礼を申し上げます。



また、ご列席の保護者の皆様のお喜びはひとしおと存じます。誠におめでとうございます。中学校での3年間は生活面、学習面、あるいは進路のことで心配の種が尽きなかったことと思いますが、子どもたちは心配をかけながらも着実に成長を重ね、大人の階段を一步一步上り始めました。これまでの3年間、絶えず学校教育へのご理解とご協力をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

只今、卒業証書を授与しました220名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

振り返ると皆さんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染症による約2か月の臨時休業から始まりました。コロナの影響はその後皆さんの中学校生活に影を落とし、普段の学校生活はもちろん、行事や部活動において大きな制約を受けました。自分たちの力ではどうしようもない理不尽な出来事に翻弄されてきましたが、皆さんはこれらの出来事を受け止め、自分たちがやれることを精一杯やりきってくれました。その姿は賞賛に値します。とりわけ3年次の「県体出場100人達成」や演劇発表会でのさすかの舞台は、長田中学校全体の活力となり、後輩たちに最上級生としてのあるべき姿を見せてくれました。本当にありがとうございました。もちろん、この3年間は、決して平坦な道ばかりではなく、つまずいたり悩んだりしたこともあったかと思いますが、その一つひとつが中学校生活の貴重な経験、体験として、これからの人生の糧となること願ってやみません。

さて皆さんは本日、めでたく卒業の日を迎え、中学校時代というステージから、次のステージへと歩を進めて行きます。その道は様々ですが、未知の世界に対する不安と緊張感、そして自分で道を切り開いていくという高揚感に包まれているのではないのでしょうか。金沢に縁がある作家 五木 寛之は著書「選ぶ力」の中で「人生とは選択の連続である。生きるとは選ぶことである。自分がどの道を選ぶかは、その人の責任で選ぶしかない」と述べています。どのような道であっても自分を生かせると思える道を信じて、進んで行ける人は幸せです。さあ、勇気を出して一歩前に踏み出してください。皆さんには無限の可能性があります。自分を信じ、自分の可能性に賭ける勇気と決断が、これからの人生を切り開いていくのです。しっかりと前を見据えて、自分の選んだ道を堂々と歩いて行ってください。そして、中学校生活で身に付けた「和」の力で目の前の課題に挑んだ皆さんは、「仲間」の大切さも十分に分かっていると思います。中学校卒業後、次のステージにおいても、新しい仲間とともに「和」の力、団体力を発揮してほしいと思います。

日本は少子高齢化、高度情報化、グローバル化と私たちを取り巻く社会は予想もつかぬほど急激に変化し、多様な価値観の中、国内外において解決しなければならない課題が山積しています。12年前の今日発生した東日本大震災の爪痕は未だ癒えず、これらの問題も決して他人事ではありません。このような厳しい状況の中、コロナ禍という前例のない道を進んできた皆さんだからこそ、人を思いやる優しい心、困難を乗り越える人の力、未来を切り拓く人の可能性、そして「自分自身の可能性」を信じ、志を同じにした「仲間」とともに、これから出会う人生の難問に立ち向かってください。

結びに、保護者の皆様、地域の皆様の長年にわたる本校への温かいお力添えに改めて感謝を申し上げます。卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして式辞といたします。